

平成 27 年度 特別養護老人ホーム喜久の園事業報告書

第1 概況

1 基本理念、目標の実践

平成 27 年度の介護報酬改定により、基本単価の減収、要介護 3 以上の入居制限等の影響が大きく、厳しい経営状況になった。この要因を更に分析するとともに、今後の 10 年、20 年を見据えて安定した経営基盤を構築していくために、慎重かつ確実に準備を進めていく必要がある。

施設及び在宅部門においては、地域で一番になることと、質の高い信頼される施設となるための取り組みでレベルアップを図った。特に利用者、家族、介護支援専門員他、各事業所に対する報告、連絡、相談を速やかに行うことを常に意識する中で、良好な関係が築かれつつある。

施設入所の条件が要介護 3 以上となり、今後施設全体で重度化の進行が想定される中、職員のケア技術の向上と、医務、嘱託医との連携が一層求められるため、今後も継続した取り組みが重要となる。

平成 27 年度は改定された介護保険において、加算を取得する体制作りを積極的に展開してきた。加算の取得は、結果的にケアの向上が図られ、「人」作りに繋がる。そのために、職員の体制を把握しながら加算を取得していくことが今後の課題である。

2 ケア向上への取り組み

年度途中に施設介護支援専門員の交代があったものの、全利用者の施設サービス計画書（ケアプラン）の更新と、そのケア内容が「個別支援」として適切であるか、介護支援専門員とその利用者の担当職員が中心となり、月単位でその方の支援経過を記録するシステムづくりも前任者から引き継ぎ、取り組んできた。

要介護認定の更新時期に利用者本人とその家族、関係職員が一同に会し、話し合うサービス担当者会議を平成 27 年度は 32 回開催し、うち 2 回は対象者の健康面、容態の変化に伴う介護内容の変更や、要望への即応に向けて臨時で開催した。利用者本人と家族の施設への要望、利用者に対する家族としての思いを改めて伺う機会を通じて、多くの職員が傾聴力のアップとともに「個別」支援計画や支援経過の記録作成のスキルを向上させたものと考えている。

支援計画の内容の振り返りについては、個々の利用者の日々の経過支援記録の作成とその評価を介護職員と共同で毎月実施し、日々その支援計画に沿ったケアを実施しているかの確認は介護支援専門員が行っている。他部署・他職種と連携しながらその内容の成果や継続可否の判断、変更点の確認など、今後も取り組んでいく。

3 感染症、防災対策への取り組み

感染症対策については、あらゆることを想定し、日頃から防止対策の充実を図ってきたことにより、平成 26 年度に続き 27 年度も感染症を防ぐことができた。また、今後想定される南海トラフ巨大地震、風水害、火災、停電対策等のために被害想定や事前準備、

訓練を計画的に進め、安全、安心な施設づくりに向けた取り組みができつつある。しかし、今般の熊本地震同様、想定を超えた災害が起こりうることを考慮すると、地域を含めた防災対策を更に進める必要があり、一層緊張感を持って訓練に取り組みたい。

4 ご家族、ボランティア、関係業者及び地域住民との連携強化

地域の介護老人福祉施設として、地元住民、行政の協力はもとより多くのボランティアの支援のもとに運営されており、特に地域交流センター「うらら」の活用については、施設見学等の際に施設の利点を説明するなど、広く利用を勧めている。今後も地域社会での役割を果たすために、様々な方々との連携、協力関係の強化に努めていく。

第2 全体の状況

1 利用状況（利用率）

平成 27 年度の介護報酬改定に伴い、大幅な減収が予想された中、健全で安定したサービスを維持していくために利用率向上に努めてきた。

利用率は、特養 97.3%（前年度 96%）、短期入居 84.5%（前年度 82%）と、前年度を若干上回った。しかし、特養 99.5%、短期 90%の基本目標には届かなかった。

理由としては、入所基準の変更（要介護 3 以上）による入居候補者の減少、他事業所との競争の激化等により入居までの所要日数（空床日数）を要したことにある。

空床日数を短縮することに意識して取り組んでいるが、平均所要日数は 11.2 日で、昨年度の 11.1 日とほぼ同様の所要日数となっている。

今後は、平成 27 年 12 月に実施した「入居希望者近況調査」の結果を踏まえ、家族へのアプローチ、入居希望者への働き掛けを強化したい。

短期入居についても他の事業所との競争が激しくなる中であって、定期的に利用されるリピーターからの声を大切に、利用者満足度向上に引き続き取り組んでいく。

（単位 %）

区分	27年度	26年度	増減
長期入居者 50人	97.3	96.0	1.3
短期入居者 10人	84.5	82.0	2.5

2 経営状況

平成 27 年度の介護保険収入は、昨年度より約 600 万円減少した。主な要因は平成 27 年度の介護報酬引き下げによる影響が大きく、加えて入居基準の変更（要介護 3 以上）による入居候補者の減少、入所申し込みはしているものの、緊急性が薄くまた他のサービスを利用している等による入居までの所要期間を要したことが考えられる。

支出については限られた予算の状況の中で支出の抑制を極力図ったことで、昨年度と比べ事務費、事業費は減少したものの、人件費が増加したことに加え、借入金償還があるため、他の拠点区分からの繰入金なしでは運営が成り立たない経営状況となっている。

開設より 10 年を過ぎ、施設内設備に関しても不具合が徐々に発生しており今後、優先順位を確認しつつ対処が必要である。

収入 (単位 千円)

区 分	27年度	26年度	増 減
介護保険	267,822	273,576	△5,754
その他収入	3,102	2,344	758
計	270,924	275,920	△4,996

支出

区 分	27年度	26年度	増 減
人件費	206,961	194,958	12,003
事務費、事業費等	70,184	73,604	△3,420
計	277,145	268,562	8,583

3 職員状況 (部門別職員数)

平成27年度末の全体職員数は52人で、正規職員は31人。内訳は介護職員22人、看護職員2人、事務室職員(調理含む)7人である。また、非正規職員は嘱託職員、医師を含め21人である。

なお28年4月1日現在の職員数は正規職員1人増の53人である。

(平成28年3月31日現在)

(単位：人)

区分	事務室			介護職員	医務室	調理	計
	施設長 副施設長 事務部長 介護主幹	CM(主任) 管理室員	送迎担当 清掃員	主任 副主任 一般	看護職員 嘱託医師	管 理 栄 養 士	
正規	5	1	—	22	2	1	31
非正規	—	1	3	13	4	—	21
計	5	2	3	35	6	1	52
26年同期	4	2 (2)	4 (4)	37 (16)	6 (4)	1	54 (26)

注) 1 26年同期の()は、うち非正規職員である。

2 他に産休、育休中が2人いる。医務室看護職員(正規2名)のうち1人は病休中。

4 施設整備等の状況

施設整備のための工事は特になかったが、空調設備不良による修繕が相次ぎ100万円余を要した。

5 特記事項

(1) 事故防止と苦情解決への取組み (資料編11、18)

事故防止は、ケアの質向上の大きなポイントであり、事故防止委員会では原因分析や再発防止に取り組んだところであるが、平成27年度は160件と、前年度(156件)から微増した。

また、苦情件数は前年度の9件から10件と、1件増加した。なお、各部署スタッフからの報告を受け対応したケースには個々の職員の「耳を傾け寄り添う」、要望に沿えるよう努めていく姿勢によって築かれた信頼感が解決の糸口になったと思われる事例もあり、日頃からの真摯な姿勢が重要であるとあらためて認識した。

(2) 余暇、レクリエーション活動の状況

明るい笑顔に満ちた環境となるために、年100回程度(1回平均12名参加)の歌声広場や各ユニットでの行事を中心に余暇活動に力を入れた。

区分		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
歌声広場 (嚙下体操)	回数	27	28	25	18	98
	利用者数(人)	310	331	299	207	1,117
	1回平均	11.5	11.8	12.0	11.5	11.7
各ユニット 行事等	回数	12	13	13	10	48
	利用者数(人)	83	108	121	105	417
	1回平均	6.9	8.3	9.3	10.5	8.7

(3) 家族、利用者との交流行事の開催

① 家族懇談会 3/21(土)開催—27家族(29人)

※制度改定の説明のため、前年度に前倒しにて実施

内容：介護報酬改定に伴う利用料金の変更 / 各種被保険者証の施設管理 / 嗜好品の個人購入における施設立替払い / 面会可能時間の変更

② 納涼祭 7/18(土) 17:00～19:00 開催

長期入居者 45人・短期入居者 5人・33家族(66人)・招待 45人
来賓 17人・ボランティア 15人 合計 193人

内容：潮海寺祇園囃子保存会の皆様による御囃子披露 / 出店 / ミニゲーム / 菊川市マスコットキャラクター「きくのん」来園

③ 敬老祝賀会 9/12(土) 14:00～15:30 開催

長期入居者 40人・短期入居者 10人・28家族(36人)・来賓 17人
合計 103人

内容：式典(祝辞・記念品贈呈)、演芸(マジックショー)

(4) 職員研修への取り組み

毎月開催の管理運営会議、各種委員会及び職員全体会議をはじめ、各種会議・委員会の効果的運営に努め、情報の共有化を図ってきた。平成27年度は目的、目標や役割を一層明確にし、機能する委員会として活性化を図ってきた。なお、会議、委員会は、原則1時間以内、ワンペーパーを目標に進めており、継続して取り組む。

スタッフ一人ひとりのケア技術と意識レベルの向上のため、介護職員のスキルチェック(年1回)の実施や園内外の研修に参加した。

	研修名	開催日	参加者数
園内 (法人)	排泄ケア	11/20	9人(法人内6人)
	排泄ケア	11/26	4人(法人内7人)
研修	リーダーシップ	12/21	5人(法人内5人)

	コミュニケーション	1/26	13人(法人内5人)
園外 研修	がんの介護実践研修会	9/12	1人
	介護職員等の喀痰吸引等研修	10/28, 29 他 計 11回	1人
	中間管理職研修会	10/21	1人
	より良い高齢者ケアを考えるセミナー	11/9	1人
	認知症介護実践研修	11/5, 12, 他 計 6回	1人
	身体拘束廃止フォーラム	2/18	1人

(5) 地域交流センター「うらら」の利用

地域住民や利用者、家族との交流の場、更に各種研修の場として積極的な利用に努めた。また、平成 25 年 3 月の地元仲島自治会との「防災に関する覚書」に基づき、防災用品を保管、管理を行っている。

第3 部門別の状況

1 事務・管理部門（資料編 8・16）

施設内においては他職種・他部署間の意思疎通、コミュニケーションを積極的に図ることで、連携強化に努めた。反面、利用者、家族、地域との連携という面においては施設側からのアプローチは十分とは言えず、今後の課題として挙げられる。引き続き利用者への明るい挨拶と声掛けに心掛け、面会をはじめとする来園者への対応についても更なるホスピタリティの意識向上が課題である。

① 事務室職員は、職種を問わず全員が利用者、家族などすべての方との最初の『窓口』であること、来園するすべての方への接し方次第で施設の印象が決まることを常に意識し、明るいあいさつ、対応に心掛けた。なお、年間面会者は 4,576 人、1 日平均 12.5 人と前年度より微増であった。

ケース記録をシステム上共有化しつつ、個々の利用者の日々の容態把握に努め、面会にみえたご家族に対し窓口対応の時点で職員側から家人へ容態報告ができる体制づくりに努めた。

ただ、地域における社会福祉施設としての認知度、評価に結び付くまでには至っておらず、個々の意識向上、更なる努力が必要であると分析する。

② 事務室職員は個々の職務、専門性の向上に努めるとともに、他職種への理解と、協力体制の構築については積極的に取り組むことができた。

③ 平成 27 年 4 月からの介護保険法改正、介護報酬改定による利用料金の変更に関する周知と入居者及びご家族への個別説明、同意手続きを通して、親切丁寧な対応に心掛けた。

平成 27 年度から実施している各種被保険者証書類の管理業務において、適正な管理とあわせ、更新手続き等の代行業務についても積極的に対応し、家人の各種手続きの負担軽減を図ることで、相互の協力体制・信頼関係の構築を目指した。

2 介護部門（資料編 5.6.7.18）

利用者満足度（個別支援）の充実、向上のために、介護現場が活性化するよう、毎朝

の朝礼により業務確認・意思疎通を図り、毎月のユニット(もしくはフロア)会議を通して利用者一人ひとりの個別ケアからユニット運営全般について協議・検討した。

- ① 利用者一人ひとりの生活が尊重されるよう、居室担当が中心となり個別支援に努めた。利用者が日々の充実や安らぎを感じられるように、余暇活動(外出支援やおやつ作り等)の立案・参加を促した。身体機能の向上にむけて他職種との協議や個別の介護物品の見直しと確認を心掛けた。水分摂取量は利用者ごとの一日の水分摂取量を把握し増加に向けて支援した。今年度の平均水分摂取量は 1,158ml と若干増加した(平成 26 年度は 1,134ml)。
- ② 各利用者や家族の意向が尊重されるよう、ケアマネジャーを中心とした他職種間連携により、自立支援にむけた「ケアプラン」を策定・支援した。利用者や家族の参加の下、サービス担当者会議に約 30 回参加した(入居後 3 か月後に必ず)。
- ③ 介護職員は、基本的な医療処置ができるよう看護職員の指導を受け、観察眼を養えるよう、医療知識・スキルの向上を目指した。
- ④ 介護職員が、幅広く個々の利用者のケアについて積極的に関わりが持てるよう、ユニット単位だけでなく、フロアとして横断的な介護体制を確保した。毎月のリーダー会議(年 12 回)の中で各フロアの状況を報告し、喜久の園全体の状況を共有した。フロア単位のケアの在り方や協力体制にむけて、ミーティングや会議を活性化させるために、事前に問題提起・精査検討し会議時間を有効活用した。業務時間内に開催し、他職種の参加を促した。また処遇別委員会「食事」「排泄」「入浴」「介護力向上」を介護職員が主体となって随時開催し、処遇内容の検討・統一に努めた。
- ⑤ 各ユニットにおいて、利用者目線の具体的なケア目標を掲げ実践し、ユニット会議内で振り返り、実現できるよう努めた。
- ⑥ 先進ユニット施設等の見学を検討していたが、実現に至らなかった。
- ⑦ 「一人一研修」の目標を掲げていたが、人員や日程の都合により一部の職員のみでの参加となった。キャリアパスも踏まえた認知症研修や吸引喀痰研修に参加し、施設全体でのレベルアップを図った。
- ⑧ 平成 25 年、26 年の法人研修「科学的介護の実践に係る介護福祉事業のモデル開発」の集大成として、8 月 6 日に開催された静岡県高齢者福祉研究大会に発表者として参加した。県立短大講師大石先生の助言を受け、研修の中で学んだおむつ外しの取り組みをまとめて発表した。

3 相談部門(資料編 11)

利用者やその家族が当施設に何を求め、何を知りたいのか、相談の第一歩、回来園の機会を大切にすることを常に意識した窓口対応に努めた。ただ、地域の方々やボランティアといった社会資源、その方々からの声、要望への対応力の向上は今後も課題である。

- ① 利用者、家族からの要望に対する傾聴とともに、即応に心掛けた。
- ② 万一の事故発生時には、適切な対応と共に、家族・関係機関等への正確かつ迅速な報告、説明を心掛け、本人・家族の「安全・安心・安楽」と合わせて「信頼」も得られる対応に努めた。
- ③ 静岡県指定介護老人福祉施設優先入居指針に基づいた入居希望者名簿を作成、随時相談に応じつつ、希望者の実情把握に努め、緊急を要すると思われる事例には迅速に

対応、優先入居検討委員会を開催した（12/14）。

前年度4月からの要介護度3以上の入居条件、近隣市町の介護施設数の増加などの影響もあり入居申込者が減少、申込者においても早期に特養ホームへの入居を希望される方が激減した。

優先入居順位名簿の順位上位者であっても、入居打診の連絡時において「早期の入居は希望しない。」という声が多く聞かれる状況であった。

反面、介護者の傷病や入院、対象者本人が退院を迫られているが自宅に戻れないといった緊急性、切迫性が高いと思われる情報、問い合わせを受けても、名簿順位上位者でなければ次回の優先入居検討委員会開催まで対応できない実状、県の実地指導結果も踏まえ、委員会を随時開催できる体制の構築、第三者委員の選定などを通して入居申込者を取りまく状況の変化に即応できる入居調整業務に努めていくことが今後の課題である。

- ④ 迅速な入退居手続きとともに、協力医療機関である菊川市立総合病院と嘱託医師、医務室との協力を前提に、入院加療後の入居者の円滑な退院調整に努めた。
- ⑤ 社会福祉士実習養成校として、卒業後の就職先として、養成校とのパイプ・繋がりを構築する機会として、相談援助技術実習1名の受け入れを行った。

4 看護（医務）部門

施設の看護、医務を担う部門として、介護部へのサポート、看護指導を通じて、事故防止、医療ケア対策、感染症予防、褥瘡対策及び身体拘束廃止等への取り組みをリードしていった。また、嘱託医師との連携を密にし、異常の早期発見に努め利用者の体調管理を行なった。

衛生委員会の発足に伴い、より一層、職員の健康管理・維持・増進に努めた。

- ① 「喜久の園医療行為に関するガイドライン」を遵守し、配置医師の指示の下、日常の情報交換、指示・非指示の連絡を緊密に行い、緊急時等迅速な対応ができるよう努めた。
- ② 看取り介護を利用者本人・家族の同意を得て、配置医師・看護師・介護職員等の連携体制の下にケアカンファレンスを開催・実施し、計画から振り返りまで他職種と連携を取り統一したケアを実施することができた。

家族の心身の負担の軽減を図り、昼夜問わずお見送りをし、多くの感謝の言葉をいただいた。

- ③ 感染症対策委員会を中心に感染予防に努め、集団感染症の発症を平成26年度に続きゼロに抑えることができた。

学習会：6月「食中毒・手洗い・疥癬について」

10月「ノロウイルスについて」「嘔吐物処理方法について」

- ④ ショートステイ担当看護師を中心に、担当職員・居宅支援専門員・訪問看護師家族から事前に情報収集を行い、連絡を密にしながらケアにあたることができた。
- ⑤ 投薬ミス（誤薬・服薬漏れ）等の医療事故を防止するため、服薬チェック体制を見直した。

投薬ミスが発生しない体制整備を図ると共に、定期薬剤一覧表の入力を徹底し介護職員に対し、薬の効能・副作用などの知識指導を行なった。

- ⑥ 医療的知識・技術の定期チェックは実施できなかったが、適宜個別に指導を行なうことで、スキルを向上させ維持することができた。
- ⑦ 年2回健康診断実施（4月・11月）
利用者の体調管理を行なうことができた。また職員は診断結果により再診を指示し、健康維持を図ることができた。
- ⑧ 「菊川市立総合病院及び市内福祉社会施設等連絡協議会」へ年2回参加（7月・3月）し、他施設や地域の医療機関と意見交換を行ない、連携を深めることができた。

5 食事部門

食事は、利用者にとって最も重要な命の糧であり最大の楽しみであるため、普通食化への取り組みと共に、各種行事食を積極的に提供できるよう心掛けた。

- ① 食事形態の見直しを各部署と連携して行い“最期まで口から食べる”を目指し安全かつおいしい食事の提供を心掛けた。
- ② 水分摂取量の目標量を当面1000mlとし水分摂取量がアップできるように水分提供方法について検討し、週2回の水分補給ゼリーの提供を行った。
- ③ 食事委員会を月1回開催し、食事内容や食事提供方法の改善を図った。
- ④ イベント食やユニット調理を行い、利用者にてきたての天ぷらや天津飯などを食べていただけるよう委託会社と共に協力し実施した。
- ⑤ 季節感を感じる行事食を、月1回提供出来るよう心掛けた。
- ⑥ 感染症、食中毒防止の為に、ユニット内冷蔵庫の食品管理、キッチン周りの清潔を保てるよう努めた。また6月の全体会にて食中毒についての勉強会を行った。
- ⑦ 委託業者への衛生管理を徹底し、感染症の防止に努めた。
- ⑧ 月1回委託会社からの給食材料費に関する収支報告を受け、委託業務の質的向上に努めた。食事は、利用者にとって最も重要な命の糧であり最大の楽しみであることを鑑み、食事の充実のために、次の取組みを行った。

6 各委員会

各種委員会の活性化―事故のない安全で安心、快適な生活の実現を目指し取り組んだ。

- ① 教育・研修委員会
幹部会議内で開催し検討を行った。
- ② 企画・広報委員会
各ユニットまたはフロアで対応した。
ア 広報紙の発行について、担当者の業務の都合等で今年度は2回の発行に留まってしまった。
イ 発行できた広報紙については写真を多く掲載する事で、施設内の様子を広く発信できた。
- ③ 防災委員会
ア 被害想定をふまえた消火・避難・通報体制の確保等、防火・防災対策の徹底を図った。
イ 毎月定期的にフロア・ユニットごとに避難誘導訓練を実施した。
ウ 年2回以上の夜間訓練を計画したが、夜間想定での実施のみであった。

夜間帯の訓練実施は今後の課題として挙げられる。

エ 災害時優先電話の活用、職員緊急連絡網、連絡体制の整備と共に、災害用メール配信システム（コミュメール）による情報伝達訓練を実施した。

④ 苦情解決委員会

苦情件数は前年度の9件から10件と件数は増加した。

なお、利用者ご本人からのケア内容に関する申し出とともに各部署スタッフからの報告を受け対応したケースには個々の職員の「耳を傾け寄り添う」、要望に沿えるよう努めていく姿勢が解決の糸口になったと思われる事例もあり、日頃から築かれた信頼感、真摯な姿勢が重要であるとあらためて認識した。

⑤ 個人情報保護委員会

ア 職員緊急連絡網の作成、災害用メール配信システム（コミュメール）登録による職員の電話番号・メールアドレスなどに関して、入居者・家族、職員の個人情報の漏えいや承諾なく情報が公表されないよう、情報管理に努めた。

⑥ 事故防止委員会

ア 事故件数を、前年対比30%以上減を目指し120件（月10件）以下を目標に掲げたが、平成27年度は160件、ヒヤリ・ハットは72件であった。（平成26年度は事故件数156件、ヒヤリ・ハットは78件）

月1回の会の中で、事故要因の分析、解決方法を具体化し、事故防止に努めた。10月にリスクマネジメントについての学習会を行った。

イ 事故報告書、ヒヤリ・ハットの記入方法の工夫・簡素化することで、誰にでも内容が理解できるように分かりやすくするよう努めた。

ウ 医務室とも連携し、服薬ミスをなくすための報告・連絡・確認を徹底した。各ユニットに利用者ごと区切られた配薬ケースと配薬チェック表を導入し、投薬忘れや誤薬防止に努めた。

エ 職員一人ひとりの意識を高め、事故防止を考えた利用者の生活環境づくり（個々にあったベッドや車椅子の選定・見直し、リビングのしつらえ等）に努めた。

センサーマットを使用し、必要な利用者には行動把握を行い、事故防止に努めた。

⑦ 身体拘束廃止委員会

ア 「身体拘束0宣言」の継続し、身体拘束に関する学習会を年2回開催した。（6月：身体拘束とは10月：身体拘束0（ゼロ）に向けての取り組み）

「スピーチロック」についてより深めた学びを行い、知識、意識のレベル向上を図り身体拘束廃止を目指した。

イ 毎月1回開催し、拘束の可否について現状を確認・分析した。センサーマットによる行動把握も活用し、施設全体で限りなく身体拘束廃止に向けた取組みに努めた。

⑧ 看取り介護委員会

ア 月1回開催

計画から振り返りまで他職種と共に統一したケアを行なうことができた。

イ 看取り介護についての学習会を年2回開催

6月「看取り介護」について

- 10月「看取りとは」 DVDでの学習会
- ウ 退去される際、利用者も含み多くの人でお見送りできた。
看取り期に近い状態から看取り介護中は家族とのコミュニケーションを更に深めるなど精神的フォローに努め、また、逝去後も心的フォローを行なった。
- エ 介護部、看護部の告別式への参列はできなかったが、管理責任者が参列後事務連絡にて全職員に報告されたことで、ご家族や利用者の対する職務の役割、責任の重さなどの意識が高められた。
- ⑨ 医療的ケア対策推進委員会
- ア 認定特定行為業務認定（喀痰吸引等） 1人取得
医療的ケア教員講習会に参加し修了証を取得・実地研修の実施。
- イ 喀痰吸引についての学習会を実施（6月）
医療知識・技術スキルチェックの実施はできなかったが、日々の業務の中、個別に指導を行ない介護職員の知識・技術の向上と維持に努めることができた。
- ⑩ 感染症対策委員会
- ア 嘱託医との連携を密にとり、早期発見に努め集団感染症を発症せず経過した。
a 流行期に合わせ「出勤前検温」、「マスク着用」を実施
b インフルエンザ予防接種実施（利用者・職員全員）
c 事務連絡にて再診情報の伝達を行ない、職員へ注意・周知を促した
- イ 施設内で感染症の学習会・研修会を開催し、職員一人ひとりの意識の向上、知識の習得を図るため、年に2回学習会を開催した。
6月「食中毒・手洗い・疥癬について」
10月「ノロウイルスについて」「嘔吐物処理方法について」
- ウ 学習会で基本的な正しい知識を習得し、手洗いや嘔吐物処理など日常業務の中で実践することができた。
- エ 外部の研修会に参加し、知識の習得・感染症に関する情報収集を行った。
11月「施設における結核対応について」研修会に参加。
- ⑪ 介護技術向上委員会
- ア 年12回会議を開催。平成26年度に実施した「介護部スキルチェック」の項目と内容を精査し引き続き実施した。介護部スキルチェックは年1回実施した。
- イ 「介護部スキルチェック」後の指導方法、指導マニュアルや指導体制づくりを各処遇委員会と連携したが、システム化には至らなかった。
- ウ 入居者に合った褥瘡予防策を考え、ケアを検討、実践することで褥瘡予防を図った。毎月、居室担当者により『褥瘡予防対策についての実施及び評価』を作成。委員、看護師、管理栄養士で皮膚トラブルの現状を知り、予防対策の見直し・情報共有に努めた。
- ⑫ 衛生委員会
- ア 年2回健康診断実施（4月・11月）
健康診断結果により再受診を促し健康維持・増進を図った。
- イ 腰痛調査を年2回実施（4月・11月）
現状の把握と分析を行ない、コルセット使用などの腰痛予防策実施を促すことができた。

第4 短期入所生活介護事業所（資料編18）

選ばれるショートステイのために次の取組みを行った。

- ① ショートステイユニットとして職員の体制、意識を整え「喜久の園を利用して良かった」と評価され、選ばれる施設を目指した。利用率90%には達しなかったが、多くの利用者にはリピーターになって頂き、約80%台の利用率を保てた。
- ② ショートステイ業務マニュアルを作成し、皆が同じケアを心掛け、利用者に快適に生活して頂くよう努力した。
- ③ 空室状況を個別に居宅介護支援事業所へ発信し、できる限り空室を作らないよう心掛けた。
- ④ ショート担当職員が不在でも外部とやり取りができるよう申し送りを徹底した。
- ⑤ 利用前の体調確認を強化し、感染症の発生を抑えることができた。
- ⑥ 毎月のユニット会議にて利用者様の情報共有を徹底することができた。
- ⑦ 毎日の朝礼でその日の利用者様のケア注意点を申し送り、統一したケアができるよう心掛けた。
- ⑧ ショートステイユニット各職員に『担当利用者様』を設け、個別にケアの検討ができる体制を整える事で利用者満足度を高めた。

資料編

(平成 27 年度・平成 28 年 3 月 31 日現在)

特別養護老人ホーム 喜久の園

1 介護度別利用(入居)者数

(平成28年3月31日現在)

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	0	1	4	3	5	13
女性	0	1	16	14	6	37
合計	0	2	20	17	11	50
割合(%)	0.0%	4.0%	40.0%	34.0%	22.0%	100.0%

平均要介護度	3.74	(男性 3.92	女性 3.68)
平成26年度	4.00	(男性 3.92	女性 4.03)

2 年齢別利用(入居)者数

(平成28年3月31日現在)

	64歳以下	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳以上	合計
男性	1	0	1	0	3	5	1	2	13
女性	2	1	1	1	5	7	12	8	37
合計	3	1	2	1	8	12	13	10	50

(平成27年3月31日現在)

	合計
男性	13
女性	35
合計	48

3 利用(入居)者平均年齢

(平成28年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	85歳5か月	61歳8か月	97歳6か月
女性	88歳0か月	61歳9か月	103歳5か月
合計	87歳4か月		

(平成27年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	85歳5ヶ月	60歳8ヶ月	97歳9ヶ月
女性	86歳2ヶ月	60歳9ヶ月	100歳10ヶ月
合計	85歳9ヶ月	—	—

4 在所期間別利用(入居)数

(平成28年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	5	6	1	1	0	13
女性	16	8	6	2	5	37
合計	21	14	7	3	5	50

(平成27年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	8	4	1	0	0	13
女性	10	9	3	6	7	35
合計	18	13	4	6	7	48

5 食事介助状況者数

(平成28年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	6	12.0%
一部介助者	6	12.0%
介助なし	38	76.0%

(平成27年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	11	22.9%
一部介助者	5	10.4%
介助なし	32	66.7%

6 入浴介助状況者数

(平成28年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	18	36.0%
個 浴	32	64.0%

(平成27年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	25	52.1%
個 浴	23	47.9%

7 排泄介助状況者数

(平成28年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	4	8.0%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	33	66.0%
歩行、杖等でのトイレ使用者	13	26.0%

(平成27年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	9	18.8%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	30	62.4%
歩行、杖等でのトイレ使用者	9	18.8%

8 面会状況

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成26年度
人 数	407	702	341	324	448	355	334	376	297	377	309	306	4,576	4,434
1日平均人数	13.6	22.6	11.4	10.5	14.5	11.8	10.8	12.5	9.6	12.2	10.7	9.9	12.5	12.1

9 帰省(外出)状況

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成26年度
人 数	18	15	12	15	13	9	11	9	12	15	7	11	147	151
日 数	34	31	28	29	26	21	24	20	23	29	19	22	306	282

10 入居・退去状況

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成26年度
入居者数	2	4	3	3	3	2	3	2	1	1	1	1	26	27
退去者数	0	6	3	2	3	4	0	3	0	1	1	2	25	28
月末在籍者数	50	48	48	48	49	47	50	49	50	50	50	50	589	586

(平成27年度)

性 別	入 居			退 去			平成26年度			
	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	入 居	退 去		
人 数	8	18	26	9	16	25	27	28		
入居前及び 退去時の状 況	居 宅		8	死 亡		22	居宅	12	死亡	26
	病 院		3	他施設・長期入院		3	病院	2	他施設 長期入院	2
	施設(老健等)		15	居 宅		0	施設	13	居宅	0

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
苦情受付件数	0	0	0	0	3	3	2	0	0	1	1	0	10	9

2) 苦情の分類一覧

(平成27年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	10
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	0
合計	10

(平成26年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	8
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	1
合計	9

12 他医療機関への受診状況

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成26年度
内科	2	5	0	2	8	4	5	3	2	2	4	3	40	37
精神科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2
脳外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
整形外科	1	3	1	2	3	5	5	6	5	6	4	2	43	21
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
泌尿器科	1	1	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	23	15
眼科	2	0	0	2	0	0	1	1	0	1	2	0	9	9
皮膚科	0	0	0	6	1	3	3	3	4	3	4	5	32	21
循環器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	9	4	14	14	14	16	15	13	15	16	13	150	106

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

(平成27年度)

治療科	人数	治療科	人数	平成26年度	
内科	13	泌尿器科	0	14	0
循環器科	0	整形外科	2	0	1
脳外科	0	口腔外科	0	2	0

2) 処置状況

(平成28年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数	平成27年3月31日現在	
経口与薬	50	経管栄養	0	43	4
創傷処置	2	バルーンカテーテル挿入	2	5	1
軟膏塗布	12	浣腸、排便、軟膏貼付	適宜	15	適宜
点眼	5			8	

3) 嘱託医師定期外往診状況()は電話指示依頼

(平成27年度)

月	回数	月	回数	平成26年度	
4月	4(12)	10月	0(1)	2(8)	1(12)
5月	6(10)	11月	0(5)	3(14)	1(8)
6月	3(7)	12月	0(4)	1(13)	3(15)
7月	2(3)	1月	1(7)	2(19)	2(19)
8月	1(3)	2月	1(1)	2(13)	1(8)
9月	2(2)	3月	0(7)	2(13)	4(12)
合計		20(62)		24(154)	

4) オンコール出勤回数・()は電話対応のみ回数

(平成27年度)

月	回数	月	回数	平成26年度	
4月	1(1)	10月	0(0)	4(1)	2(1)
5月	2(0)	11月	1(6)	6(4)	1
6月	3(0)	12月	2(2)	4(2)	5(2)
7月	2(4)	1月	1(3)	7(5)	3(2)
8月	2(3)	2月	1(0)	3(1)	3(1)
9月	1(0)	3月	2(1)	4(2)	5(3)
合計		18(20)		47(24)	

14 所在状況

(平成28年3月31日現在)

保険者名	在籍者数	入居・退去状況		平成27年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入居	退去
菊川市	47	25	23	44	26	26
掛川市	1	0	1	2	0	2
袋井市	0	0	1	1	0	0
豊岡市	1	0	0	1	1	0
静岡市	1	1	0			
牧之原市	0	0	0	0	0	0
島田市	0	0	0	0	0	0
御前崎市	0	0	0	0	0	0
合計	50	26	25	48	27	28

15 入居申込み(待機者)状況

(平成28年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成27年3月31日現在
菊川市	102	145
掛川市	3	13
牧之原市	0	4
御前崎市	2	1
島田市	1	2
袋井市	1	1
磐田市	0	1
藤枝市	1	0
浜松市	1	1
静岡市	0	0
清水町	0	1
県外	2	3
合計	113	172

16 ボランティア(訪問)状況

(平成27年度)

月 日	団体名(代表者名)および個人名	内 容
毎月2回 (第2第4火)	ふれあい犬	犬とのふれあい
毎月第3火曜日	傾聴・お話しボランティア	傾聴・入居者とのふれあい
毎月第1火曜日	ハーモニー青葉	ハーモニカ演奏と入居者馴染みの歌の披露
毎月1回	ハーモニカ・オカリナ・ハンドベル	ハーモニカ等の演奏を通して音楽に触れる
毎月1回	民生児童委員 介護施設ボランティア	入居者とのコミュニケーション・外出支援
毎月1回	菊川市赤十字奉仕団	入居者とのコミュニケーション・外出支援
毎月1回	ちぎり絵 ボランティア	ちぎり絵 作品の展示、寄贈
隔月(年5回)	おんがくの広場	演奏と楽器のふれあい
7月18日	潮海寺祇園囃子保存会	納涼祭 祇園囃子の披露
7月18日	菊川市公認マスコット きくのん	納涼祭 入居者、家族、地域の方とのふれあい交流
7月18日	えぷろんの会	納涼祭 出店のお手伝い
9月12日	マジックショー	敬老祝賀会 第二部にてマジックの披露
10月18日	菊川市祭典(仲島地区)	踊り披露
10月26日	六郷小学校 2年生 86名	踊りや合唱の披露、入居者とのふれあい交流
10月27日		
11月12日		
12月15日	サンタクロース ボランティア	各フロアのクリスマスイベントに参加

17 ボランティア(奉仕)状況

(平成27年度)

団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数	団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数
明るい社会づくり推進協議会菊川支部	タオル寄贈	1	1	菊川東中学校 2年	納涼祭 お手伝い	1	1
大浜中学校 3年 福祉施設体験	補助業務 コミュニケーション	9	9	菊川東中学校 1年		3	3
菊川西中学校2年 職場体験学習	補助業務 コミュニケーション	18	6	六郷小学校 6年		3	3
菊川東中学校 ボランティア体験	歌声広場	17	2	六郷小学校 5年		2	2
六郷小学校 ボランティア体験	コミュニケーション	3	1	横地小学校 5年		1	1
河城小学校 ボランティア体験	清掃	1	1	六郷小学校 4年		5	5

平成27年度	合計	年間延日数	64 日	年間実人数	35 人
--------	----	-------	------	-------	------

平成26年度	合計	年間延日数	40 日	年間実人数	23 人
--------	----	-------	------	-------	------

18 事故調査状況

(平成27年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成26年度
怪我	転倒	1	1			1	1		1	1	1			7	6
	転落・滑落	2				1	1		1	3	2	2	1	13	13
	外傷	8	3	6	9	12	6	7	3	5	8	2	2	71	72
食物	誤嚥					2								2	1
	異食・誤飲	2	1		1				2		1	1		8	3
	経管栄養										1			1	2
薬	誤薬	1	1	1	1			2	1					7	11
	投薬忘れ	2	2	1	2		1		3	1	2	1		15	15
	内服薬	1				1		5						7	5
	配薬													0	0
ケア	爪切り	2					1							3	3
	ケア提供		1	2		1								4	3
	ショート忘れ物		1					1			1			3	4
物損	私物紛失			1		1						1		3	2
	物損	1	3	2	1	2	1	2		2			2	16	16
	利用者同士のトラブル													0	0
合計		20	13	13	14	21	11	17	11	12	16	7	5	160	156

19 実習状況

(平成27年度)

学校名等	実習名	延日数	実人数	平成26年度	
東京女子医科大学	基礎看護実習	16	8	16	8
東海福祉専門学校	希望実習	0	0	0	0
三幸福祉カレッジ	ヘルパー2級実習	0	0	0	0
聖隷クリストファー大学	社会福祉援助技術実習	23	1	23	1
小笠高校	インターンシップ	0	0	3	1
静岡大学	介護等体験	0	0	5	1
常葉大学	管理栄養士臨地実習	5	1	5	1
	インターンシップ	3	1	0	0
静岡福祉大学	介護福祉実習Ⅱ	80	2	0	0
合計		127	13	52	12

20 短期入居生活介護利用状況

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成26年度
利用者人数	41	40	39	47	48	42	42	42	39	39	38	40	497	494
総利用者数	250	266	237	246	289	257	273	258	254	241	245	277	3093	3,003

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均利用率	平成26年度
1日平均	8.3	8.6	7.9	7.9	9.3	8.6	8.8	8.6	8.1	7.7	8.4	8.9	8.4	8.2
送迎回数	113	106	107	121	130	115	123	118	119	108	115	129	117	103